

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H030S104		現代社会と福祉Ⅱ(Contemporary Society WelfareⅡ)					概論系																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																																																																																																																											
選択	2	1	福祉健康科学部	後期		氏名 三好慎之																																																																																																																											
						E-mail miyoshi-yoshiyuk@olta-u.ac.jp 内線 7696																																																																																																																											
授業の目的は、社会福祉の理念および実践が社会の成熟と人権意識の高まりによって発展し、施策（制度）として形成された社会福祉を学習することにある。また、少子・高齢社会やグローバリズムの進展によって、社会構造が大きく変動していくなか、現代社会における社会福祉は、あらたな局面に直面している。本講義の第二の目的として、転換期にある日本社会の実態をグローバリズム、ローカリズムの視点でとらえ、現代社会に希求される社会福祉の実践や施策を検討する。																																																																																																																																	
具体的な到達目標 <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 現代社会の問題、課題を説明できる。</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 現代社会における社会福祉制度・実践の潮流を説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 学修で修得した知識を活用することができる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 現代社会の問題、課題を説明できる。	○	○									目標2 現代社会における社会福祉制度・実践の潮流を説明できる。			○	○	○						目標3 学修で修得した知識を活用することができる。				○	○	○					目標4											目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																							
目標1 現代社会の問題、課題を説明できる。	○	○																																																																																																																															
目標2 現代社会における社会福祉制度・実践の潮流を説明できる。			○	○	○																																																																																																																												
目標3 学修で修得した知識を活用することができる。				○	○	○																																																																																																																											
目標4																																																																																																																																	
目標5																																																																																																																																	
目標6																																																																																																																																	
目標7																																																																																																																																	
目標8																																																																																																																																	
目標9																																																																																																																																	
目標10																																																																																																																																	
授業の内容 - オリエンテーション 社会福祉の理念 - 家族の変容と社会福祉 - 日本社会における福祉の形成過程 - 保育士に求められる専門性 - 介護職に求められる専門性 - 専門職の課題と制度対応 - 現代の社会福祉法制度体系 - 子育て支援と社会福祉 - 介護への支援と社会福祉 - 社会福祉と地域の実態 - 社会福祉行政と社会福祉施設 - 社会福祉における相談援助と利用者保護 - 社会福祉と権利擁護 - 障外園における社会福祉の動向 - 専門職からみた社会福祉の課題と展望																																																																																																																																	
ラ	A:知識の定着・確認	○	ミニッツ・ペーパー。						工夫 その 他の	動画を活用する。																																																																																																																							
イ	B:意見の表明・交換	○																																																																																																																															
ン	C:応用志向																																																																																																																																
テ	D:知識の活用・創造	○																																																																																																																															
グ																																																																																																																																	
時間外学修 の内容と時間 の目安	準備 学修	テキストや配布資料及び参考文献等から、用語の理解、法・制度、歴史的背景を学修する。(15h)																																																																																																																															
	事後 学修	テキストや配布資料及び、参考文献などを通じて復習し、学修した内容を深める。(15h)																																																																																																																															
教科書	三好慎之編(2016)『はじめての社会福祉論』法律文化社																																																																																																																																
参考書	1.一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4.社会福祉の原理と政策』中央法規																																																																																																																																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10																																																																																																																					
	試験	60%	○	○																																																																																																																													
	レポート課題	40%	○	○	○																																																																																																																												
注意事項	私語は厳禁に禁じます。																																																																																																																																
備考																																																																																																																																	
リンク	URL																																																																																																																																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)											
AH42G011		社会理論と社会システム(Social Theory and Social System)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1	福	前期		氏名 大杉 望												
						E-mail ohsugi@oita-u.ac.jp 内線 7527												
授業の概要	社会は諸個人とその関係で成り立っているといっても、そのとらえ方は様々である。その方法論を追究してきたのが社会学であり、そこから学ぶべきものは多い。そうした基礎的理論を理解するとともに、現代の社会的課題の基本を把握することを目指す。																	
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1	社会学の基本的な考え方を説明できる。						○					○						
目標2	社会的なデータを見る際の注意点を述べることができる。						○					○						
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 社会学の成立 (A. コント)																		
2 M. ウェーバーの社会学方法論 (行為理論と理解社会学)																		
3 M. ウェーバーの社会理論 (資本主義成立論)																		
4 マルクスの社会把握の方法論 (社会構成理論と史的唯物論)																		
5 マルクスの社会理論 (資本主義成立論)																		
6 デュルケムの社会学方法論 (「方法の規範」より)																		
7 デュルケムの社会理論 (逸脱行動論と社会問題)																		
8 現代社会と自殺																		
9 デュルケムの「自殺論」																		
10 集団の理論																		
11 官僚制と官僚主義																		
12 家族の分類、機能																		
13 家族の変容																		
14 現代社会の労働																		
15 女性と労働																		
ラーニング	A:知識の定着・確認						○ 授業内容に関する問いを設定した小テストを適宜行う。						工		その			
ニング	B:意見の表現・交換												共		他			
グ	C:応用志向																	
グ	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備	シラバスの内容に沿って、次回の内容をある程度把握しておく (1h)。																
	事後	授業で理解できなかったことを書籍、ネット等で調べる (1h)。																
	学修																	
教科書	なし。適宜プリントを配布する。																	
参考書	なし																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	小テスト	20%	○															
	最終テスト	80%	○	○														
注意事項	なし																	
備考	なし																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H030S105		福祉行政と福祉計画(Finance, Administration and Plan of Social Welfare)				制度政策系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 飯田 隆次 E-mail 内線						
授業の概要		我が国の社会福祉及びその上位概念である社会保障について概説するとともに、社会福祉基礎構造改革などを踏まえた行政の実施体制（国と地方との関係、財政、組織及び団体、専門職など）について学ぶ。 また、介護保険制度などの個別の制度内容や、福祉計画の意義、目的、主体、方法などについて理解を深める。										
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)										
目標1	社会保障のさまざまな制度を理解し、自らの生活と関係づける。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	現在の行政と財政の仕組みを理解し、その課題、将来の方向性を提案できる。			○	○							
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	(福祉行政) 序論：福祉と制度、社会保障の変遷											
2	(福祉行政) 序論：福祉計画の概要											
3	(福祉行政) 行政の骨格、社会福祉と法制度、福祉行政の組織、社会福祉基礎構造改革											
4	(福祉行政) 国・地方における社会保障関係費の動向、民間社会福祉事業の財源等											
5	(福祉行政) 社会福祉基礎構造改革、専門諸機関											
6	(福祉行政) 介護・高齢者福祉制度											
7	(福祉行政) 子ども・子育て支援制度											
8	(福祉行政) 障害者福祉制度											
9	(福祉行政) 生活保護と低所得者対策											
10	(福祉行政) 年金、医療制度											
11	(福祉計画) 福祉計画の目的と意義											
12	(福祉計画) 福祉計画の基本的視点、福祉計画の策定過程と留意事項、ニーズ把握と評価											
13	(福祉計画) 老人福祉計画・介護保険事業計画、障害者基本計画、障害福祉計画											
14	(福祉計画) 次世代育成支援行動計画、子ども・子育て支援事業計画、地域福祉計画											
15	(まとめ) 社会保障を巡る最近の動向											
ラ イ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○	ミニッツペーパー（授業のポイント、疑問点、理解度等）の記入、ディスカッション				工 夫 の 他 の					
時間外学習 の内容と時間 の目安	準備 学習	配付資料、行政機関のホームページや新聞掲載の関係情報を必要に応じて予習する（23h）。										
	事後 学習	授業で学習した内容についての復習と課題の研究を行う（22h）。										
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントを使用する。											
参考書	社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座10「福祉行政と福祉計画」、中央法規出版（株）、2017年2月・											
成績評価 の方法 及び 評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	最終課題（論文試験）	80%	○	○								
	ミニッツペーパー（振り返りシート）	20%	○	○								
注意事項												
備考												
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)												
H030S105		社会保障論Ⅱ(Social Security Ⅱ)					制度政策系												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員													
選択	2	2	福	後期		氏名 松本由美													
						E-mail matsumoto-yumi@oita-u.ac.jp 内線 6097													
この授業では、日本の社会保障制度の具体的な仕組みと改革方策について学ぶとともに、政策課題について考えるための多角的な視点を身につける。そのために、社会保障の歴史と社会保障制度(年金制度、医療保険制度、介護保険制度)、民間保険制度、諸外国の社会保障制度について学習し、理解を深める。それを踏まえて、社会保障制度の政策課題や今後のあり方を考える。																			
具体的な到達目標 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <th>DF等の対応(別表参照)</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </table>									DF等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
DF等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10									
目標1 社会保障の各制度について具体的に説明することができる。						○													
目標2 社会保障制度の歴史と近年の改革動向について理解し、説明することができる。						○													
目標3 社会保障制度の課題について考え、今後のあり方について自らの考えを述べるすることができる。						○													
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 社会保障の政策課題																			
2 日本の社会保障の歴史(確立期(～1960年代))																			
3 日本の社会保障の歴史(拡充期・改革期(1970年代～))																			
4 年金制度の体系・財政方式																			
5 国民年金制度																			
6 厚生年金保険制度																			
7 年金制度の課題と改革動向																			
8 医療保険制度の体系と医療提供体制																			
9 健康保険制度																			
10 国民健康保険制度																			
11 高齢者医療制度																			
12 医療保険制度の課題と改革動向																			
13 介護保険制度																			
14 公的保険制度と民間保険制度の関係																			
15 諸外国における社会保障制度																			
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○ 知識・理解の確認のための小テスト等を実施する。 B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 D:知識の活用・創造					工夫	学習を補足するため、資料や新聞記事等を活用する。												
時間外学習の内容と時間の目安	準備 参考書等に基づき、必要に応じて予習を行う(16h)。 事後 毎回、講義内容の復習を行う、知識や理解を定着させておく(30h)。 学修																		
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントを使用する。																		
参考書	最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座『7 社会保障』中央法規、2021年。 土田武史編著『社会保障論』成文堂、2015年。																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
学期末試験		70%	○	○	○														
授業への参加の積極度		30%	○																
注意事項																			
備考																			
リンク	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)								
H030S102		地域福祉論Ⅱ(Local Welfare Ⅱ)					社会福祉分野系								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名 川村岳人									
						E-mail g-kawamura@oita-u.ac.jp 内線 6086									
授業概要 この授業のねらいは、地域福祉を推進するために活用・調整・開発すべき社会資源や具体的な方法を理解し、地域福祉推進のための基礎的知識を得ることです。地域福祉論は近年の社会福祉運動の展開・発展の中でその主要な位置を占めるようになってきていますが、地域福祉の内的規定要件としての「自治」の面でも、外的規定要件としての「自治制」の面でも、いまだに課題が多いのが現状です。そこで、本講義では地域福祉を取り巻く制度や多様な担い手による地域福祉活動の検討を通じて、地域福祉を推進する方法を考えます。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)									
目標1	地域福祉に関連する制度が地域福祉に与える影響を理解する。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2	地域福祉を地方自治と関連づけて捉え、地方自治への運動を志向した地域福祉の推進方法を理解する。					○	○								
目標3	地域福祉が直面している課題を、構造的な要因と関連づけて理解する視角を習得する。					○	○	○							
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1 地域福祉と地方自治															
2 地域福祉と制度(1) 地方行財政制度															
3 地域福祉と制度(2) 介護保険制度															
4 地域福祉の推進政策															
5 地域福祉の財源															
6 地域福祉の推進方法(1) ネットワーキング															
7 地域福祉の推進方法(2) 社会資源の開拓															
8 地域福祉の推進方法(3) ニーズ把握の方法															
9 地域福祉の推進方法(4) 地域包括ケアシステムの構築															
10 地域福祉の推進方法(5) 福祉サービスの評価															
11 地域福祉の援助技術(1) コミュニティワーク															
12 地域福祉の援助技術(2) コミュニティソーシャルワーク															
13 地域福祉計画															
14 地域福祉とローカル・ガバナンス															
15 これからの地域福祉を考える															
ラ	A:知識の定着・確認	毎回リアクションペーパーに質問・感想を記入させ、必要に応じて次の講義でコメントする。					工	授業開始時等にアイスブレイクを行う。							
イ	B:意見の表現・交換						夫								
ニ	C:応用志向						の								
テ	D:知識の活用・創造						他								
グ							の								
準備	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する (15h)。														
時間外															
学修															
事後	配付資料や参考文献等を用いて復習する。														
学修															
教科書	講義内容に即したプリントを配付する。														
参考書	講義内容に関連する図書を選定紹介する。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
期末試験		100%	○	○	○										
注意事項	私語など講義の妨げとなるような行為は禁止する。														
備考	なし														
リンク															
URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・〔新主題〕/(分野)																			
H030S203		児童・家庭福祉論(Children,Young people and family welfare)				社会福祉分野系																			
※大分を創る科目																									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																			
選択	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名 栄富麗美 E-mail .eidome@oita-u.ac.jp 内線 6088																			
授業の概要	①子どもが権利の主体であることを踏まえ、子ども・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。② 児童福祉の歴史と児童福祉の発達や制度の発展過程について理解する。③ 子どもや家庭福祉に係る法制度について理解する。④ 子どもや家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉上の役割について理解する。⑤ 子ども・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。																								
具体的な到達目標											DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	子ども家庭福祉の理念、制度施策、実践のあり方など、実践に必要な基本的かつ包括的な内容や視点について理解し説明できる。											○													
目標2	子ども家庭福祉実践に必要な技術や倫理について理解し説明できる。											○													
目標3	子どもや保護者等のニーズに対応する社会資源について理解し説明できる。											○													
目標4																									
目標5																									
目標6																									
目標7																									
目標8																									
目標9																									
目標10																									
授業の内容																									
1 児童家庭福祉の理念・子ども・家庭の定義と権利																									
2 子ども・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境																									
3 子どもの権利擁護と児童家庭福祉																									
4 児童家庭福祉の歴史・制度と実施体制																									
5 子ども・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割																									
6 子育て支援サービス・保育サービス・母子保健																									
7 児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス																									
8 子どもの貧困対策・ひとり親家庭等の家庭支援																									
9 社会的養護																									
10 障害児支援																									
11 少年非行等への対応																									
12 グループ発表 子ども虐待防止																									
13 グループ発表 社会的養護																									
14 グループ発表 障害児・インクルーシブ																									
15 グループ発表 少年非行への支援																									
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造				○グループディスカッションを多用する。また、関心のあるテーマについてグループで調べ、問題解決のための新たな方法を開発する。				工夫		その他の		ショートライティングによって、理解度を確認し、質疑応答を行う。												
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	次回のトピックについて調べる (10h)。																							
	事後学習	ショートライティングを書く (10h)																							
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントを使用する。																								
参考書																									
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10													
	ショートライティング	30%	○																						
	口頭発表	70%	○	○	○																				
注意事項	なし																								
備考	なし 【地域創生教育科目】																								
リンク	URL																								

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H030S204		障害児・者福祉論(Social welfare for disabled people)					社会福祉分野系																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																																																																																																																											
選択	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名 滝口 真																																																																																																																											
						E-mail 内線																																																																																																																											
授業の概要 障害の概念と特性を踏まえ、障害児・者とその家族の「生活を包括的に支援する」という視点に立ち、障害児・者を取り巻く社会環境について理解する。また、障害児・者福祉の歴史と障害者の変遷に加え、障害児・者の法制度と「多職種連携による支援の仕組み」について理解する。さらに、障害児・者に生じる生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる「知識、技能、価値」の修得および適切な支援のあり方を理解する。																																																																																																																																	
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 障害概念と特性について理解できる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 障害児者とその家族の生活実態とこれを取り巻く社会環境について「生活を包括的に支援する」視点について理解できる。</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 障害児者福祉の歴史と法制度および「関係機関と専門職」の役割について述べるができる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4 障害児者とその家族等に対する支援の実態について、専門職としての「知識・技能・知識」について説明ができる。</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 障害概念と特性について理解できる。	○			○							目標2 障害児者とその家族の生活実態とこれを取り巻く社会環境について「生活を包括的に支援する」視点について理解できる。		○	○								目標3 障害児者福祉の歴史と法制度および「関係機関と専門職」の役割について述べるができる。	○			○							目標4 障害児者とその家族等に対する支援の実態について、専門職としての「知識・技能・知識」について説明ができる。	○	○									目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																							
目標1 障害概念と特性について理解できる。	○			○																																																																																																																													
目標2 障害児者とその家族の生活実態とこれを取り巻く社会環境について「生活を包括的に支援する」視点について理解できる。		○	○																																																																																																																														
目標3 障害児者福祉の歴史と法制度および「関係機関と専門職」の役割について述べるができる。	○			○																																																																																																																													
目標4 障害児者とその家族等に対する支援の実態について、専門職としての「知識・技能・知識」について説明ができる。	○	○																																																																																																																															
目標5																																																																																																																																	
目標6																																																																																																																																	
目標7																																																																																																																																	
目標8																																																																																																																																	
目標9																																																																																																																																	
目標10																																																																																																																																	
授業の内容 1 障害児者福祉を学ぶ事の意義、国際生活機能分類(ICF)と障害者の定義と特性(ICIDHからICFへ、ICFの構造、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害等) 2 障害児者の生活実態(地域移行、居住、就学・就労、高齢化、介護需要、障害者の芸術・スポーツ等) 3 障害児者を抱える社会環境(バリアフリー、コンフリクト、障害者虐待、親亡き後問題、きょうだいへの支援等) 4 障害児者福祉理念と障害者の変遷及び障害児者処遇の変遷(ソーシャルインクルージョンまでの変遷、偏見と差別、障害者関係法変遷、障害児者の処遇史) 5 障害者の権利条約と障害者基本法及び障害児者福祉制度の発展過程(障害者権利条約の概要、障害者基本法の概要等) 6 障害者総合支援法(障害者総合支援法概要、障害者サービス及び相談支援、障害者支援区分及び支給決定、自立支援医療、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画等) 7 身体障害者福祉法と知的障害者福祉法(身体障害者福祉法と知的障害者福祉法の概要、身体障害者手帳と療育手帳、各福祉法に基づく措置等) 8 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律と児童福祉法(精神保健福祉法概要・入院形態と処遇、対象手帳、児童福祉法の障害児支援概要、発達・家族・地域支援等) 9 発達障害者支援法と障害者虐待防止法(発達障害者支援法概要、発達障害者支援センターの役割、障害者虐待防止法概要、障害者虐待未然防止、通報義務、早期発見等) 10 障害者差別解消法の概要と高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)の概要(合理的配慮、施設設備管理者等の責務) 11 障害者雇用促進法の概要と国等による障害者就労施設等からの物品等に関する法律(事業主の責務、法定雇用率、障害者優先調達推進法の概要、障害者就労施設等) 12 障害児者と家族等の支援における関係機関の役割(国・都道府県・市町村、障害者に対する法制度に基づく施設・事業所、特別支援学校、ハローワーク等) 13 障害児者と家族に関連する専門職等の役割(医師・看護師・理学療法士等、相談支援専門員・サービス管理責任者等、ピアサポーター、SSW、住民・ボランティア等) 14 障害領域における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割並びに障害者と家族等に対する支援の実態(多職種連携を含む)(地域相談支援、就労支援、居住支援等) 15 全体総括と展望、これからの障害児者福祉																																																																																																																																	
ラ	ク	ニ	ン	グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造																																																																																																																												
時間外学習の目的と内容 事前 授業で学習した内容を振り返るために小テストおよび配布資料を用いて復習を行いましよう(30分)。 事後 授業で学習した内容を振り返るために小テストおよび配布資料を用いて復習を行いましよう(30分)。																																																																																																																																	
教科書 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 共通科目 ③『障害者福祉』、中央法規出版、2021年(各自最新版を準備下さい。)																																																																																																																																	
参考書 滝口 真・堀永良逸共編著、『障害者福祉論 一障害者に対する支援と障害者自立支援制度一』、法律文化社、2010年(購入の必要はありません。適宜必要な箇所を単元に応じて紹介します。)																																																																																																																																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																	
	小レポート					15%	○	○	○	○																																																																																																																							
	発表報告					15%	○	○	○	○																																																																																																																							
	期末テスト					70%	○	○	○	○																																																																																																																							
注意事項	席は間隔をあけてソーシャルディスタンスに心がけましょう。																																																																																																																																
備考	疑問などが生じたら、その都度、質問して下さい。																																																																																																																																
リンク	URL																																																																																																																																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H020S201		高齢者福祉論Ⅰ(Elderly person welfare theoryⅠ)				社会福祉分野系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択(社会福祉実践コースは必修)	2	1	福祉健康科学部	後期		氏名 工藤 修一 E-mail takamine@oita-u.ac.jp 内線 7947						
授業の概要 周知のとおり21世紀のわが国は、高齢者が人口の多くを占めることになる。高齢者「問題」と称されるように、人口の高齢化(少子化)は社会にさまざまな影響を及ぼす。ここでは少子高齢化社会とはどのような社会なのか、また、高齢社会を「幸福社会」にするためにはどうすればいいかを考えていく。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1 少子高齢社会の全体像を説明できる。						1	2					
目標2 高齢者の生活課題を説明できる。						3	4					
目標3 介護保険の全体像を説明できる						5	6					
目標4						7	8					
目標5						9	10					
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 少子高齢社会と社会問題												
2 高齢者の特性(身体機能)												
3 高齢者の特性(精神機能)												
4 高齢者並びに家族の生活課題(経済的課題)												
5 高齢者並びに家族の生活課題(社会関係の課題)												
6 高齢者並びに家族の生活課題(介護の課題)												
7 高齢者保健福祉の発展と現行制度の体系												
8 介護保険法概説(財政)												
9 介護保険法概説(サービス)												
10 介護保険法概説(要介護認定)												
11 介護保険概説(利用手続き)												
12 ケアマネジメント外部講師講演(認知症介護者)												
13 ケアプラン演習												
14 外部講師講演(認知症介護者)												
15 海外の高齢者施策												
ラーニング	A:知識の定着・確認	○30分ごとに講義を区切り質問を受け付けるとともに、当該単位の内容についての考察を求める。					工夫その他の					
	B:意見の表明・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備 介護者の手記(3h)											
	事後 少子高齢化が「自分」(≠職業人としての自分)に与える影響を予測する(3h)											
教科書	使用しない。											
参考書												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト3回	100%										
注意事項	双方向的な講義展開であり、時間中は学生の発言を多く求める。											
備考	なし											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	医療ソーシャルワーカー（7年。）

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H030S202		高齢者福祉論Ⅱ(Elderly person welfareⅡ)				社会福祉分野系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 工藤修一 E-mail takamine@oita-u.ac.jp 内線 7947						
授業の概要 扱う素材は介護保険の制度論であるが、ねらいはこの理解に留まるものではない。社会保障制度に限らず制度は、トレード・オフを必然とし、すべての人に有利に働くものではない。制度設計の裏側(根拠や事情)を考察することを通して、介護保険を越えて社会保障制度を見る目(意義と限界)を養う。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1	介護保険サービスについて実践的に説明できる。					1	2					
目標2	各条項の目的を理解できる。					3	4					
目標3	各条項についてメリットとデメリットを判別できるようになる。					5	6					
目標4						7	8					
目標5						9	10					
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 介護保険法概説 (a) (目的・被保険者・保険事故・財源構成など)												
2 介護保険法概説 (b) (利用手続き・サービス種類・介護認定審査会・審査請求など)												
3 要介護認定の位置づけ・手続きとロジック												
4 要介護認定演習 (ロジックを用いて手作業で一次判定を算定)												
5 介護保険でのケアマネジメントの全体像と流れ												
6 アセスメントの方法												
7 ケアプランの方法												
8 事例を活用してのアセスメント・ケアプラン演習												
9 介護報酬と給付管理の方法												
10 事例を活用しての給付管理演習												
11 各専門職・組織の役割とネットワーク												
12 介護予防の重要性と方法施設サービスの機能と理解												
13 包括的支援事業の目的と内容												
14 地域包括支援センターの機能												
15 介護予防・日常生活総合事業の目的と内容												
ラーニング	A:知識の定着・確認	○要介護認定及びケアプランについては、実際の事例を用いてロールプレイを実施。					工夫その他の					
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	保険原理と機能、および限界について (3h)										
	事後 学修	介護予防の限界と倫理的課題について (3h)										
教科書	使用しない。											
参考書	指定しない。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト (3回)	100%	○	○	○							
注意事項	社会保障論などの講義も活用して「保険とは何か」、また「民間保険と社会保険の相違」について理解しておくこと。											
備考	講義中、適宜みなさんの意見を求め、また質問を受け付ける。ただ「聴くだけ」ではなく、能動的な姿勢で臨むこと。											
リンク	URL											

担当教員の 火務経歴の 有無	○
教員の実務 経験	医療ソーシャルワーカー（7年）

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H030S205		公的扶助論(Public Assistance)					社会福祉分野系																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																																																																																																																											
選択	2	2	社福	前期		氏名 三好 慎之																																																																																																																											
						E-mail miyoshi-yoshiyuk@oita-u.ac.jp 内線 7856																																																																																																																											
本講義は、現代の貧困問題とそれに対する施策としての公的扶助の原理や、制度について学ぶことを目的とする。また、国民生活の安全網としての生活保護の問題・課題を検討することにある。そのため、まず、2000年代に入って社会的に注目された日本の貧困問題を分析し、その実態を理解する。次いで、救済対策としての公的扶助の役割や原理を学ぶ。そのうえで、日本の生活保護制度の仕組みを学ぶとともに、運用場面における諸問題について検討を深める。以上、公的扶助の実態を踏まえることから、日本社会が直面する貧困問題を考える。																																																																																																																																	
具体的な到達目標 <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 「貧困問題」を分析する視点を修得する。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 公的扶助の実態を理解し、説明できる。</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 生活保護制度の仕組みや実施体制を説明できる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4 貧困問題をふまえて生活保護の改革課題を提示することができる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 「貧困問題」を分析する視点を修得する。	○										目標2 公的扶助の実態を理解し、説明できる。		○	○								目標3 生活保護制度の仕組みや実施体制を説明できる。			○	○							目標4 貧困問題をふまえて生活保護の改革課題を提示することができる。			○	○	○						目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																							
目標1 「貧困問題」を分析する視点を修得する。	○																																																																																																																																
目標2 公的扶助の実態を理解し、説明できる。		○	○																																																																																																																														
目標3 生活保護制度の仕組みや実施体制を説明できる。			○	○																																																																																																																													
目標4 貧困問題をふまえて生活保護の改革課題を提示することができる。			○	○	○																																																																																																																												
目標5																																																																																																																																	
目標6																																																																																																																																	
目標7																																																																																																																																	
目標8																																																																																																																																	
目標9																																																																																																																																	
目標10																																																																																																																																	
授業の内容 - 現代日本の貧困問題 - 貧困の概念 - 貧困の把握と測定 - 戦前日本社会における国民生活と貧困問題 - 戦後日本社会における国民生活の状況と社会保障の役割 - 高度経済成長と公的扶助の展開 - 日本の貧困問題と貧困対策の変化 - 生活保護制度の成立と展開 - 生活保護の目的と原理 - 生活保護制度の仕組みと保護基準 - 生活困窮の実態 - 生活保護の実施体制と援助の方法 - 生活保護の動向と特徴 - 生活保護改革と生活困窮者自立支援制度 - まとめ																																																																																																																																	
ラ イ ク エ ン テ ー グ ラ フ	A:知識の定着・確認 ○ B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 ○ D:知識の活用・創造 ○					工 夫	その 他																																																																																																																										
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備学修 参考文献や辞典、配布資料から、用語の理解、法制度、歴史的背景を予習する。(15h) 事後学修 配布資料及び、参考文献などを通じて復習し、学習した内容を深める。(15h)																																																																																																																																
教科書	指定しない。																																																																																																																																
参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 (2021) 『最新社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援』中央法規																																																																																																																																
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10																																																																																																																					
	試験	60%	○	○																																																																																																																													
	レポート	40%	○	○	○																																																																																																																												
注意事項	講義では、ただ漫然と聞いていたり、知識を入れ込むだけではなく、自分の頭で理解し考えるようにしてください。また、受講生も私も講義に集中できる環境を築くため、講義の迷惑になるような私語や受講態度はしないでください。																																																																																																																																
備考																																																																																																																																	
リンク	URL																																																																																																																																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H030S208		就労支援サービス(Employment Support Services)					社会福祉分野系																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・時	担当教員																																																																																																																											
選択	1	2	福祉健康科学部	後期		氏名 中村 廣光																																																																																																																											
						E-mail 内線																																																																																																																											
授業概要 社会福祉士の相談援助活動において必要とされる、就労支援政策や支援制度及び就労支援対象となる人々の実状について理解すると共に、就労支援に携わる組織、団体、専門職の役割や大分県における実際の活動状況について理解する。また、社会保障費の効率化の視点や就労支援を行っていく上で要請される医療・保健福祉・NPO活動等関連領域の専門職や支援者との連携のあり方についても理解し、実状を把握する。																																																																																																																																	
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 我が国における、雇用・就労の実状と支援政策・制度、それに関する問題・課題を説明できる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 就労支援組織・団体、専門職の実態を知り、その果たしている役割や連携の仕方を説明できる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 就労に困難を抱える人々の実情や特性を理解し、それぞれに応じた支援施策や具体的方法を説明できる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>目標4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>目標5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>目標6</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>目標7</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>目標8</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>目標9</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>目標10</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 我が国における、雇用・就労の実状と支援政策・制度、それに関する問題・課題を説明できる。	○										目標2 就労支援組織・団体、専門職の実態を知り、その果たしている役割や連携の仕方を説明できる。	○										目標3 就労に困難を抱える人々の実情や特性を理解し、それぞれに応じた支援施策や具体的方法を説明できる。	○										目標4											目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																							
目標1 我が国における、雇用・就労の実状と支援政策・制度、それに関する問題・課題を説明できる。	○																																																																																																																																
目標2 就労支援組織・団体、専門職の実態を知り、その果たしている役割や連携の仕方を説明できる。	○																																																																																																																																
目標3 就労に困難を抱える人々の実情や特性を理解し、それぞれに応じた支援施策や具体的方法を説明できる。	○																																																																																																																																
目標4																																																																																																																																	
目標5																																																																																																																																	
目標6																																																																																																																																	
目標7																																																																																																																																	
目標8																																																																																																																																	
目標9																																																																																																																																	
目標10																																																																																																																																	
授業の内容 1 我が国における雇用・就労の動向 2 就労支援を必要とする人々の実状 3 就労支援施策と制度 4 就労支援に関わる行政機関の役割と実際 5 就労支援に直接関わっている機関や組織の役割と実際 6 就労支援を行う専門職とその役割 7 就労支援における他領域の専門職、支援者との連携の方法と実際 8 特別な支援を必要としている人々の理解と支援のポイント ～発達障害・N.E.E.T・ひきこもり～ 9 10 11 12 13 14 15																																																																																																																																	
ラ イ ク ニ ン グ グ	A:知識の定着・確認 ○ グループによる話し合いと意見交換 B:意見の表現・交換 ○ 専門性の高い授業内容については、ワークシートを配布し、「課題解決アプローチ学習」を行う C:応用志向 ○ D:知識の活用・創造 ○					その他 ・複雑性の高い授業内容については、授業前シートを配布し、課題の焦点化、疑問点を解消するための質疑応答を徹底して行う。																																																																																																																											
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習 TVニュースや新聞記事、雑誌等を通じて、雇用・就労問題への関心を高めてください(8h)。 事後学習 授業ごとに配布するテキスト資料に再度目を通し、専門用語、法・制度を十分にマスターしてください(8h)。																																																																																																																																
教科書	使用しない。授業ごとにパワーポイント・テキスト資料、課題解決用ワークシート、授業前シートを配布。																																																																																																																																
参考書	「産業カウンセリングハンドブック第5版」 日本カウンセリング学会監修 金子書房2000年 「障害者総合支援法がよくわかる本」 福祉行政法令研究会著 秀和システム2019年 「ひきこもり支援論」 竹中哲夫著 明石書店2010年																																																																																																																																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																					
試験		80%	○	○	○																																																																																																																												
ワークシートの作成・提出		20%	○	○	○																																																																																																																												
注意事項	なし																																																																																																																																
備考	なし																																																																																																																																
リンク	URL																																																																																																																																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H030S207		権利擁護と成年後見制度論(Human rights guarantee and Guardianship theory)				社会福祉分野系																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・選	担当教員																																																																																																																										
選択	2	2年	福祉健康科学部	前学期		氏名 岡田 壮平, 田中 良太 E-mail 内線																																																																																																																										
授業概要 社会福祉サービスの利用についての相談援助の場面では、その活動と法との関連を理解することにより質の高い支援が可能になります。そのためには、憲法の基本的人権や行政法の行政手続き等についての理解が必要不可欠です。また、社会福祉基礎構造改革によって、高齢者や障害者、子育て等の福祉サービスの利用が措置制度から契約制度に転換したため、民法の契約に関する理解も必要です。本講義は、社会福祉サービスの利用における相談援助の活動に関連する法として、憲法・民法・行政法を中心に、その基本的な法律用語や法解釈、判例等について講述した上で、判断能力が不十分な人々の生活を支援する成年後見制度についての理解を深めていきます。																																																																																																																																
具体的な到達目標 <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 憲法・民法・行政法の基本的な法律用語について説明することができる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 判例や新聞記事の内容について意見を述べるができる。</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 成年後見制度における問題点を挙げるができる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4 憲法・民法・行政法の知識を、世帯の生活において応用することができる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5 法的観点から地域や福祉の課題について分析することができる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6 憲法や民法、行政法、成年後見制度について、探究心をもって自発的に学習に取り組むことができる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 憲法・民法・行政法の基本的な法律用語について説明することができる。	○										目標2 判例や新聞記事の内容について意見を述べるができる。		○									目標3 成年後見制度における問題点を挙げるができる。			○								目標4 憲法・民法・行政法の知識を、世帯の生活において応用することができる。				○							目標5 法的観点から地域や福祉の課題について分析することができる。					○						目標6 憲法や民法、行政法、成年後見制度について、探究心をもって自発的に学習に取り組むことができる。						○					目標7											目標8											目標9											目標10										
目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																						
目標1 憲法・民法・行政法の基本的な法律用語について説明することができる。	○																																																																																																																															
目標2 判例や新聞記事の内容について意見を述べるができる。		○																																																																																																																														
目標3 成年後見制度における問題点を挙げるができる。			○																																																																																																																													
目標4 憲法・民法・行政法の知識を、世帯の生活において応用することができる。				○																																																																																																																												
目標5 法的観点から地域や福祉の課題について分析することができる。					○																																																																																																																											
目標6 憲法や民法、行政法、成年後見制度について、探究心をもって自発的に学習に取り組むことができる。						○																																																																																																																										
目標7																																																																																																																																
目標8																																																																																																																																
目標9																																																																																																																																
目標10																																																																																																																																
授業の内容 - ガイダンス・法学入門（相談援助活動と法との関わり） - 憲法（1） 憲法の意義と機能 - 憲法（2） 基本的人権の内容とその射程 - 憲法（3） 社会権 - 民法（1） 民法の意義と機能 - 民法（2） 契約 - 民法（3） 親族・相続 - 行政法（1） 行政法の意義と機能 - 行政法（2） 行政手続法・行政不服審査法 - 成年後見制度（1） 成年後見制度の意義と機能 - 成年後見制度（2） 成年後見 - 成年後見制度（3） 保佐・補助 - 日常生活自立支援事業 - 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 - 権利擁護活動の実際																																																																																																																																
ラーニングログ	A:知識の定着・確認 ○ 事例に基づくディスカッションを行うことがある。 B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 ○ D:知識の活用・創造 ○				工夫	その他の																																																																																																																										
時間外学習の内容と時間の目安	準備 事前にトピックに関連する資料を学習する（10h） 事後 学習した内容を振り返り学習を深める（10h）																																																																																																																															
教科書	使用しない																																																																																																																															
参考書	社会福祉士養成課程編集委員会（編）『新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度（第4版）』（2016年・中央法規）																																																																																																																															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																				
レポート		100%	○	○	○	○	○	○																																																																																																																								
注意事項																																																																																																																																
備考	本講義は、社会福祉士試験の受験科目である「権利擁護と成年後見制度論」にも対応しているので、受験を予定している学生は受講してください。																																																																																																																															
リンク	URL																																																																																																																															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H030S208		更生保護制度(Offenders Rehabilitation)				社会福祉分野系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	1	2年	福祉健康科学部	後学期		氏名 甲斐祐治、比良千奈美 E-mail shien@saiseikai-teichaku-oita.net 内線						
授業の概要 近年、障害や貧困など犯罪の社会因子が次第に明らかとなり、これへの対応が重要な課題となっている。関わり、刑務所への社会福祉士の配置や地域生活定着支援センターの創設など、ソーシャルワークの活動領域が広がってきている。本講義では、更生保護を中心に司法福祉分野の理解を深めるとともに、地域定着の実際の事例も活用しながらそこでソーシャルワーカーに必要とされる基本的技術について学ぶ。												
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照)												
目標1	犯罪の生起要因について説明できる。											
目標2	生起要因の分析から再犯防止の方策について説明できる。											
目標3	再犯防止方策におけるソーシャルワーカーの役割機能について説明できる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 犯罪の社会因子と地域生活定着支援事業について(2020年8月地方再犯防止推進計画概要、2021年4月入り口支援事業概要)												
2 矯正施設における処遇と現状												
3 刑務所入所者の心理と家族心理を考える① (DVD鑑賞) レポート提出												
4 刑務所入所者の心理と家族心理を考える② (DVD鑑賞) レポート提出												
5 更生保護制度、医療観察制度の概要(保護観察・生活環境調整・仮釈放・更生緊急保護・恩赦・医療観察法)												
6 更生保護の担い手(保護観察官・保護司・更生保護施設・民間協力者)												
7 被疑者・被告人支援、被害者支援												
8 地域生活定着支援センターの援助事例を用いたグループワーク												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	☐ 講義で扱う事例はすべて実際の担当ケースである。「自分だったらどのような支援をするのか」について、逐次発言を求める。	エ 大 夫 の 他 の									
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修 例えば、非行に至った同級生等、触法行為をしたケースをプライバシーに留意しメモ書きを作成。(1h) 事後学修 犯罪者家族の苦悩に関する文献学習(講義内で文献を準備します)(20h)											
教科書	使用しない。											
参考書	なし											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法 課題レポート	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		100%	○	○	○							
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	社会福祉士としての臨床経験約20年
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	大分県地域生活定着支援センター職員
実務経験を いかした教 育内容	学問的なことのみを伝えるのではなく、実務で経験した事例を具体的に挙げ、支援に関わる制度的な繋がりや本人を主体とした支援のあり方等を伝えていく。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)												
H030S301		ソーシャルワークの基盤と専門職(The Foundation of Social Work Profession)					相談援助技術系												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択	2	1年	福祉健康科学部	後期		氏名 栄留里美 E-mail eidome@oita-u.ac.jp 内線 6098													
授業の概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解し、そのジレンマを考える。																		
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ・意義・課題について述べることできる。							○	○	○	○								
目標2	ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について説明できる。							○	○	○	○								
目標3	ソーシャルワークの価値規範と倫理について述べ、自分なりの考えを付け加えることができる。							○	○	○	○								
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1	1 社会福祉士及び介護福祉士法・精神保健福祉士法・定義、専門性・法制度成立や見直しの背景																		
2	2 ソーシャルワークの概念・ソーシャルワークの定義																		
3	3 ソーシャルワークの基盤となる考え方・原理																		
4	4 社会正義・人権尊重																		
5	5 多様性の尊重・集団的責任																		
6	6 ソーシャルワークの理念―当事者主権とは																		
7	7 尊厳の保持・権利擁護																		
8	8 権利擁護・アドボカシー																		
9	9 自立支援・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーション																		
10	10 ソーシャルワークの形成過程																		
11	11 ソーシャルワークの形成過程・慈善組織協会・セトルメント運動																		
12	12 ソーシャルワークの形成過程・医学モデルから生活モデルへ・ソーシャルワークの統合化																		
13	13 ソーシャルワークの倫理綱領―社会福祉士・精神保健福祉士																		
14	14 倫理的ジレンマとは																		
15	15 倫理的ジレンマの考察																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	・グループディスカッション・口頭発表を通じて、単なる講義ではない										工夫	・学びの到達度を把握するために、毎回の講義終了時にショート・ライティングを課す。					
	B:意見の表現・交換	○	問題解決型の学修を目指す。										その他の						
	C:応用志向	○																	
	D:知識の活用・創造	○																	
時間外学修の内容と時間の目安	準備	次回のトピックについて調べ学習をする (10h)																	
	学修	口頭発表の準備をする (10h)																	
	事後	ショートライティングを書くことで復習を行う (10h)																	
	学修																		
教科書	指定しない																		
参考書	社会福祉士養成講座編集委員会(編)『ソーシャルワークの基盤と専門職』(中央法規)2020年																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	ショートライティング	20%	○	○	○														
	口頭発表	80%	○	○	○														
注意事項																			
備考	なし																		
リンク	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H030S301		相談援助の基盤と専門職Ⅰ(The Foundation of Social Work ProfessionⅠ)				相談援助技術系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1	福祉健康科学部	後期		氏名 栄留星美 E-mail eidome@oita-u.ac.jp 内線						
授業の概要	ソーシャルワーカーの役割・意義やソーシャルワークの概念について、ソーシャルワークの形成・発展史を通して理解を深める。さらに、今日的な議論としてのソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術についての理解を軸として、総合的・包括的な援助、権利擁護・アドボカシーのあり方等について理解する。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	ソーシャルワークの歴史的展開を理解することができる。						○					
目標2	ソーシャルワークの今日的意義や対人援助者の役割について理解することができる。						○					
目標3	ソーシャルワークの価値や倫理について、他職種との関連の上で理解することができる。						○					
目標4	ソーシャルワークの基本的な方法について、その理論的基盤を理解することができる。						○					
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 社会福祉士の役割と意義												
2 ソーシャルワークの歴史的展開① ―ソーシャルワークの源流、前史												
3 ソーシャルワークの歴史的展開② ―基礎確立期・発展期												
4 ソーシャルワークの歴史的展開③ ―現代のソーシャルワーク												
5 現代社会と地域福祉、コミュニティ・ソーシャルワークの関係												
6 ソーシャルワークの概念と定義												
7 ソーシャルワークの構成要素―エンパワメントとストレンギス視点												
8 相談援助の理念① ―ソーシャルワークの価値と原理・												
9 相談援助の理念② ―権利擁護・アドボカシーと尊厳の保持・ノーマライゼーションとインクルージョン												
10 倫理綱領と倫理的ジレンマ												
11 ソーシャルワークにおける歴史的人物の各自口頭発表 日本；源流												
12 ソーシャルワークにおける歴史的人物の各自口頭発表 日本；基礎確立期～現代												
13 ソーシャルワークにおける歴史的人物の各自口頭発表 諸外国；源流												
14 ソーシャルワークにおける歴史的人物の各自口頭発表 諸外国；基礎確立期～現代												
15 まとめ ソーシャルワークとは何か 理念・歴史を考える												
グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○ ○ ○ ○	・グループディスカッション・口頭発表を通じて、単なる講義ではない問題解決型の学習を目指す。			工夫 その他	・学習の到達度を把握するために、毎回の講義終了時にショート・ライティングを課す。					
時間外学習の内容と時間の目安	準備 事後	学修 学修	準備 次回のトピックについて調べ学習をする (10h) 事後 ショートライティングを書くことで復習を行う (10h)									
教科書	教科書を指定しない											
参考書	福祉士養成講座編集委員会(編) 『新・社会福祉士養成講座第6巻 相談援助の基盤と専門職 第3版』中央法規出版 2015											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	ショートライティング	30%	○	○	○	○						
	口頭発表	70%	○	○	○	○						
注意事項												
備考	なし											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)														
H030S302		相談援助の基盤と専門職Ⅱ(The Foundation of Social Work ProfessionⅡ)					相談援助技術系														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員															
選択	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 柴留里美 E-mail aidome@oita-u.ac.jp 内線															
授業の概要	ソーシャルワーカーの役割・意義やソーシャルワークの概念について深める。さらに、今日的な理論としてのソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術についての理解を軸として、ソーシャルアクションの方策について理解する。																				
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 社会福祉の概念と実践との関係を理解すること。												○									
目標2 ソーシャルワークの概念を理解すること。												○									
目標3 ソーシャルワーク実践の構成要素を理解すること。												○	○								
目標4 ソーシャルワーク実践の共通基盤(理念・原則・価値)を理解すること。												○	○								
目標5 ソーシャルワークのソーシャルアクション方法についての理解を深めること。												○	○								
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1 ソーシャルワークの機能																					
2 ソーシャルワークの構成要素																					
3 ソーシャルワークの各構成要素の機能と役割(1)																					
4 ソーシャルワークの各構成要素の機能と役割(2)																					
5 ソーシャルワーク理論の最近の動向(1)																					
6 ソーシャルワーク理論の最近の動向(2)																					
7 ソーシャルワーク実践における価値と原理																					
8 ソーシャルワークの倫理・専門職論																					
9 ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマ―事例を通して																					
10 ソーシャルワーク実践とソーシャルアクション																					
11 ソーシャルワーク実践とソーシャルアクションの実際 子ども・ジェンダー分野の口頭発表																					
12 ソーシャルワーク実践とソーシャルアクションの実際 障害分野の口頭発表																					
13 ソーシャルワーク実践とソーシャルアクションの実際 高齢分野の口頭発表																					
14 ソーシャルワーク実践とソーシャルアクションの実際 地域福祉分野の口頭発表																					
15 ソーシャルワーク実践と課題とまとめ																					
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	自ら考える力を養成するため、グループワーク、事例を調べて発表するといったアクティブラーニングを用いる。										工夫	その他の	ショートライティングを書き、思考力と書く力を養成する。						
	B:意見の表現・交換	○																			
	C:応用志向	○																			
	D:知識の活用・創造	○																			
時間外学習の内容と時間の目安	準備	次回のトピックについて調べ学習を行う(10h)																			
	学習	口頭発表の準備をする(10h)																			
	事後	ショートライティングを書き、思考力と書く力を養成する。(15h)																			
	学習																				
教科書	教科書を指定しない																				
参考書	福祉士養成講座編集委員会(編)『新・社会福祉士養成講座第6巻 相談援助の基盤と専門職 第3版』中央法規出版 2015																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	ショートライティング	30%	○	○	○	○	○														
	口頭発表	70%	○	○	○	○	○														
注意事項																					
備考																					
リンク	URL																				

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
H030S303		相談援助の理論と方法Ⅰ (Social Work Theory and Method Ⅰ)					相談援助技術系									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	課・限	担当教員										
選択	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名 長谷川真司 E-mail hasegawa@yamanaguchi-pu.ac.jp 内線										
授業概要 ソーシャルワークは、社会福祉の実践体系として展開される専門的活動であり、その理論と方法について講義する。相談援助の理論と方法Ⅰでは、ソーシャルワークの基本的な視点、ソーシャルワークの対象や援助関係および展開過程などの学習を通して、基本的な専門的技術を理解し実践活動としてのイメージ化ができることをめざす。また、現在のソーシャルワーク実践において重要である地域を基盤としたソーシャルワーク（総合的かつ包括的な相談援助）の動向も踏まえ理解することをめざす。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10								
目標1	人と環境の交互作用に関して理解する。						○									
目標2	ソーシャルワークの対象について理解する。						○									
目標3	ソーシャルワークの援助関係について理解する。						○									
目標4	ソーシャルワークの展開過程について理解する。						○									
目標5	地域を基盤としたソーシャルワークについて理解する。						○									
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 オリエンテーション、【講義】ソーシャルワークとは（地域を基盤としたソーシャルワークの視点）																
2 【講義】ソーシャルワークの構造と機能①																
3 【講義・演習】ソーシャルワークの構造と機能②																
4 【講義】人と環境の交互作用																
5 【講義・演習】ソーシャルワークにおける援助関係①																
6 【講義】ソーシャルワークにおける援助関係②																
7 【講義】ソーシャルワークの展開過程①																
8 【講義・演習】ソーシャルワークの展開過程②																
9 【講義・演習】ソーシャルワークの展開過程③																
10 【講義】ソーシャルワークの展開過程④																
11 【講義】ソーシャルワークの展開過程⑤																
12 【講義】地域を基盤としたソーシャルワークの理解と実際①																
13 【講義】地域を基盤としたソーシャルワークの理解と実際②（コーディネートとネットワーキング）																
14 【講義】地域を基盤としたソーシャルワークの理解と実際③（社会資源の活用・調整・開発）																
15 【講義】まとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○ 演習 B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 D:知識の活用・創造					工夫 その他	・授業の効果的な進捗のために、実践事例、臨床例の分析と考察を取り入れる。									
時間外学習の内容と時間の目安	準備 授業内容に関連した参考文献等を予習する(15h)。演習の準備をする(3h)。 事後 授業で学んだ内容について復習を行う(15h)。関心を深めたいテーマについてさらに学びを深める(3h)。															
教科書	授業中に配布するプリント等を使用する。															
参考書	最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12『ソーシャルワークの理論と方法 【共通科目】』中央法規 最新社会福祉士養成講座6『ソーシャルワークの理論と方法【社会専門】』中央法規															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
課題レポート①	課題レポート①	30%	○	○												
	課題レポート②	30%			○											
	課題レポート③	40%				○										
注意事項	H 日常生活のなかで人と環境について関心を持ち、新聞や関連の文獻講義など行ってください。															
備考	授業の内容は予定ですので、変わる可能性があります。															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の 実務経験	在宅介護支援センターソーシャルワーカーとしての実務経験がある。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)														
H030S501		相談援助実習指導Ⅰ(Leading of Social Work PracticumⅠ)					実習系														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	建・限	担当教員															
選択	2	2	福祉健康科学部	前		氏名 工藤修一他 E-mail takamine@oita-u.ac.jp 内線 7847															
授業の概要	社会福祉士受験資格取得に係る実習の事前学習、事後学習を行う科目である。事前学習では、ソーシャルワーク実践の基礎的理解を土台に、実習生としての姿勢や当該実習分野の理解促進を図る。事後学習では、各福祉分野の利用者の生活課題について、環境との関連からその生起要因について分析をする。																				
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	実習体験を通して、ソーシャルワーカーとしての基礎を確立できる。											○									
目標2	ソーシャルワーカーに必要な価値・知識・技術を体系的に列挙できる。											○									
目標3	利用者の生活課題を課題因子から判別できる。												○								
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1 ソーシャルワーク実習の意義と目的																					
2 ソーシャルワークの共通基盤の基本的理解																					
3 ソーシャルワークの実践分野の基本的理解																					
4 介護や保育など関連分野の基本的理解																					
5 実習課題の明確化と実習計画書作成																					
6 実習記録の内容と記録方法																					
7 プライバシー保護など実習生に求められる倫理																					
8 事前訪問																					
9 事前訪問を踏まえての実習で必要とされる知識・技術などの整理(配属実習・実習巡回)																					
10 実習体験の全体的省察																					
11 児童福祉分野のソーシャルワーク実践の基本的理解																					
12 障害者福祉分野のソーシャルワーク実践の基本的理解																					
13 高齢者福祉分野のソーシャルワーク実践の基本的理解																					
14 見学実習(更生保護施設)																					
15 見学実習(児童相談所)																					
ラーニング	A:知識の定着・確認					○ 実習施設ごとのグループ学習、並びに講義での成果の報告					工夫		その他の								
ラーニング	B:意見の表現・交換					○															
ラーニング	C:応用志向																				
ラーニング	D:知識の活用・創造																				
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修 疾病(障害)別の利用者特性(7h)																				
時間外学習の内容と時間の目安	事後 学修 実習経験のリフレクション(8h)																				
教科書	使用しない。																				
参考書	指定しない。																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	実習レポート	80%	○	○	○																
	実習グループ報告	20%	○	○	○																
注意事項																					
備考																					
リンク	URL																				

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の 実務経験	医療ソーシャルワーカー (7年)

ナンバリング H0305502		授業科目名(科目の英文名) 相談援助実習Ⅰ (Social Work PracticumⅠ)				区分・【新主題】/(分野) 実習系						
必修選択	単位 2	対象年次 2	学部 福祉健康科学部	学期 前期	課・限	担当教員 氏名 工藤修一ほか E-mail takaminie@oita-u.ac.jp 内線 7947						
選択	2	2	福祉健康科学部	前期								
授業の概要 本科Ⅰは講義及び演習形式の「相談援助実習指導Ⅰ」と連動しており、狭義の「実習部分」となる。「利用者を知る」をキーワードとして、利用者との関わりを通して、その特性や生活課題などを学ぶ。同時に、専門職として求められるマナーなども含めた基礎的な素養を涵養する。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	実習分野の全体像を網羅的に説明できる。					○						
目標2	各職種ごとの障害特性を説明できる。					○						
目標3	専門職(組織人)としての基礎的な行動ができるようになる。					○						
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	実習プログラムは配属先によって異なる。											
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
フィードバック	A:知識の定着・確認 ☐ 実習のためすべてアクティブラーニング B:意見の表現・交換 ☐ C:応用志向 ☐ D:知識の活用・創造 ☐		工夫その他の									
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	相談援助実習指導Ⅰ参照										
	事後 学修	相談援助実習指導Ⅰ参照										
教科書	使用しない。											
参考書												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実習レポート	100%	○	○	○							
注意事項	社会性をもって実習に臨むこと。											
備考												
リンク	URL											

担当教員の 火務経験の 有無	○
教員の英務 経験	医療ソーシャルワーカー (7年)

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H040S311		精神保健福祉相談援助の基盤(専門)(Psychiatric Social Work Fundamentals(Advanced))				精神保健福祉系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・原	担当教員						
選択	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名 今村 浩司 E-mail imamura_k@seinan-jo.ac.jp 内線						
授業の概要 精神保健福祉士に期待される役割や、相談援助の定義・理念・形成過程・体系などについて解説し、他職種との連携について理解を促進する												
具体的な到達目標												
目標1	精神保健福祉士が行う相談援助の概要と必要な知識及び態度について理解する	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2	精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する		○									
目標3	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する		○									
目標4	精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携(チームアプローチを含む)の意義と内容について理解する		○									
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	精神保健福祉士の役割と意義について理解する											
2	社会福祉士との相違点を知る											
3	相談援助における精神保健福祉士の専門性について考える											
4	精神障害者の権利擁護について(研究と資料作成)											
5	精神障害者の権利擁護について(グループ発表及び講評・講義)											
6	専門職倫理とジレンマについて考える											
7	ジレンマの解消と教育について(スーパービジョン研究と資料作成)											
8	ジレンマの解消と教育(上記発表と講評・講義)											
9	DVD視聴と考察(精神障害者の権利について)											
10	精神保健福祉士の専門性とチームアプローチについて理解する											
11	精神保健福祉士の専門性とチームアプローチ(事例作りと発表)											
12	精神保健福祉士の活動の広がりについて知る											
13	精神保健福祉士の活動の広がりについて(研究及び資料作成)											
14	精神保健福祉士の活動の広がりについて(発表及び講評・講義)											
15	総合的・包括的な課題に関する多職種連携と精神保健福祉士の役割											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○ ○ ○ ○	小グループ活動による課題研究と資料作成、発表を繰り返す、知識の定着や活用を促進し、意見交換及び発表によって表現力、発言力、応用力、対応力を養成する	工 夫 其 他 の								
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	グループ発表のための研究及び資料作成は講義時間中には完了しないため、授業外時間は各項目において数時間以上										
	事後 学修	グループ発表のための研究及び資料作成は講義時間中には完了しないため、授業外時間は各項目において数時間以上										
教科書	中央法規出版「精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」の最新版											
参考書	講義内で説明する											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	資料作成及び発表までの過程	10%	○									
	発表内容	10%	○	○	○	○						
	期末テスト	80%	○	○	○	○						
	合計100点中60点以上が合格(ただし出席3分の2以上が条件)											
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経歴	精神科医療機関の相談援助職として20年、刑務施設にて精神障害受刑者支援10年、成年後見センター運営10年、社会福祉法人理事10年等

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)					
H04DS312		精神保健福祉の理論と相談援助の展開I (Psychiatric Social Work I)					精神保健福祉系					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 尾口 昌康 E-mail 内線						
授業の概要 精神障害者を対象とした相談援助技術について、精神障害者の支援モデル、相談援助の対象者との援助関係について理解した上で、個別援助および集団援助の過程、技術を学ぶ。その際、個別援助では危機介入アプローチや生活支援、集団援助では、デイケアやSSIT（生活技能訓練）セルフヘルプグループ等の事例を用いて、実際の援助場面を想定して学習する。加えて、精神障害者と家族の調整及び家族支援の意義を理解し、その援助方法について学ぶ。さらに、スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法について理解する。												
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10				
目標1	精神保健福祉士の業務内容及び支援対象について、自分の言葉で説明できる						○					
目標2	精神障害者の人権について正しく理解し、その大切さについて、自分の言葉で説明できる						○					
目標3	障害者福祉の基本理念と意義および障害者総合支援法における精神障害者の福祉の概要について、自分の言葉で説明できる						○					
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 オリエンテーション 精神保健医療福祉の歴史と動向												
2 我が国の精神保健医療福祉の制度の背景とパラダイム転換												
3 諸外国の精神保健福祉の変遷1												
4 諸外国の精神保健福祉の変遷2												
5 心理社会的リハビリテーションの展開、当事者活動の支援												
6 精神保健福祉士の歴史的役割づけ												
7 近年の精神保健福祉の理念												
8 精神保健医療福祉施策の動向1												
9 精神保健医療福祉施策の動向2												
10 精神障害者支援の実践モデルの意味と内容												
11 治療モデル、生活モデル、ストレングスマodel												
12 地域を基盤とした相談援助の展開												
13 「ケースの発見」から「終結・アフターケア」に至る一連の過程1												
14 「ケースの発見」から「終結・アフターケア」に至る一連の過程2												
15 まとめ												
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		○ ①正確な知識が定着しているか確認するため、②意見の表現・交換を通じて、事例をどのように理解しているかを確認するとともに、援助方法について他者に的確に伝える言語化スキルを高めるため、毎回、学生に意見や説明を求める。		工夫 その他							
時間外学習の内容と時間の目安	準備 事前に配布される資料を読んで解らないところを事前に調べる(15h)。事例についてはその概要をジェノグラムやエコマップ、タイムライン等を用いて整理し、理解した上で授業に臨むこと(15h) 事後 知識の定着を図るために、学んだ内容についてノートを整理すること(15h)											
教科書	特に指定しない。配布プリントとスライドを用いて授業を実施する											
参考書	授業内で適宜紹介する											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験	70%	○	○	○							
	授業中の発言内容や参加姿勢等	30%	○	○	○							
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位修得が必須条件である。											
備考												
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	精神科病院のソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として、12年間の勤務歴あり
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	精神科病院勤務時代に、精神保健福祉援助実習の指導者として各大学・専門学校から配属された実習生の指導を担当した。
実務経験を いかした教 育内容	医療機関での実務経験を活かし、事例を用いた具体的なソーシャルワーク業務についての講義が可能である

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H040S313		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ(Psychiatric Social WorkⅡ)				精神保健福祉系																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																																																																																																																										
選択	2	3	福祉健康科学部	前期		氏名 橋本美枝子 E-mail hmiako@oita-u.ac.jp 内線 7604																																																																																																																										
授業概要 精神障害者を対象とした相談援助技術について、精神障害者の支援モデル、相談援助の対象者との援助関係について理解した上で、個別援助および集団援助の過程および技術を学ぶ。その際、個別援助では危機介入アプローチや生活支援、集団援助では、デイケアやSST（生活技能訓練）、セルフヘルプグループ等の事例を用いて、実際の援助場面を想定して学習する。加えて、精神障害者と家族の関わり及び家族支援の意義を理解し、その援助方法について学ぶ。さらに、スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法について理解する。																																																																																																																																
具体的な到達目標 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 精神障害者の疾病および障害の特質に配慮した個別援助技術の知識、方法について、自分の言葉で説明できる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 精神障害者の疾病および障害の特質に配慮した集団援助技術の知識、方法について、自分の言葉で説明できる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 家族支援の意義と方法について、クライアントや他職種等を想定して、自分の言葉で説明できる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4 スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法を理解し、どんな場合に活用し、提供するのか、自分の言葉で説明できる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 精神障害者の疾病および障害の特質に配慮した個別援助技術の知識、方法について、自分の言葉で説明できる。	○										目標2 精神障害者の疾病および障害の特質に配慮した集団援助技術の知識、方法について、自分の言葉で説明できる。	○										目標3 家族支援の意義と方法について、クライアントや他職種等を想定して、自分の言葉で説明できる。	○										目標4 スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法を理解し、どんな場合に活用し、提供するのか、自分の言葉で説明できる。	○										目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																						
目標1 精神障害者の疾病および障害の特質に配慮した個別援助技術の知識、方法について、自分の言葉で説明できる。	○																																																																																																																															
目標2 精神障害者の疾病および障害の特質に配慮した集団援助技術の知識、方法について、自分の言葉で説明できる。	○																																																																																																																															
目標3 家族支援の意義と方法について、クライアントや他職種等を想定して、自分の言葉で説明できる。	○																																																																																																																															
目標4 スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法を理解し、どんな場合に活用し、提供するのか、自分の言葉で説明できる。	○																																																																																																																															
目標5																																																																																																																																
目標6																																																																																																																																
目標7																																																																																																																																
目標8																																																																																																																																
目標9																																																																																																																																
目標10																																																																																																																																
授業の内容 1 精神保健福祉士の相談援助とは何か 2 精神障害者の支援モデル 3 相談援助の対象者との援助関係 4 相談援助の過程①：インテーク、契約、アセスメント 5 相談援助の過程②：インターベンション、モニタリング、効果測定・評価、終結とアフターケア 6 相談援助活動のための面接技術 7 個別支援の実践と事例分析①：危機介入アプローチ 8 個別支援の実践と事例分析②：生活支援の援助技術 9 集団を活用した支援の実践と事例分析①：デイケアとグループワーク 10 集団を活用した支援の実践と事例分析②：SST（生活技能訓練） 11 集団を活用した支援の実践と事例分析③：セルフヘルプグループ 12 精神障害者と家族との関係 13 家族支援の方法 14 スーパービジョンとコンサルテーション 15 まとめ																																																																																																																																
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○ ①正確な知識が定着しているか否か確認するため、②意見の表現・交換を通して、事例をどのように理解しているのかを確認するとともに、援助方法について他者に的確に伝える言語化スキルを高めるため、毎回、学生に意見や説明を求める。 B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 D:知識の活用・創造																																																																																																																															
時間外学習の内容と時間の目安	準備 教科書・配布資料等を読んだ上で授業に臨むこと。とくに、制度・サービスに関する知識については、不明な点を調べる（15h）。事例については、事例の概要をジェノグラムやエコマップ、タイムライン等を用いて整理することで理解して授業に臨むこと（15h）。 事後 知識の定着をするために、学んだ内容についてノートを整理すること（15h）。																																																																																																																															
教科書	『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』、中央法規 『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』、中央法規																																																																																																																															
参考書	適宜紹介する																																																																																																																															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																				
	期末試験	70%	○	○	○	○																																																																																																																										
	授業中の発言内容や参加姿勢等	30%	○	○	○	○																																																																																																																										
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須要件である。																																																																																																																															
備考	なし																																																																																																																															
リンク	URL																																																																																																																															

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）
実務経験を いかした教 育内容	精神障害を持つ当事者および家族等の個別相談およびグループ援助の方法について、事例を用いた実践的学習を行う。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H040S314		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ(Psychiatric Social WorkⅢ)				精神保健福祉系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	3年次	福祉健康科学部	後期		氏名 茶屋道 拓哉 E-mail t-chayanichi@soe.luk.ac.jp 内線						
授業の概要 精神障害者リハビリテーションの概念、構成、プロセス、実践現場についての理論と知識を身につける。また、精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解するとともに、リハビリテーションにおける連携と統合について理解することをめざす。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1	精神科リハビリテーションの概念、構成、プロセス、実践現場についての理論と知識を身につけ、実習場面で実践できる。	1	2	3	4	5	6					
目標2	精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて概略を理解し、説明できる。											
目標3	精神科リハビリテーションにおける連携と統合について理解し、説明できる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	精神科リハビリテーションの概念を学ぶ。											
2	精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則について理解する。											
3	精神科リハビリテーションの構成と展開を学ぶ。											
4	精神障害者に対するリハビリテーションの計画を考える。											
5	精神障害者に対するアプローチの方法を考える。											
6	精神専門療法・診療報酬上の位置づけについて学ぶ。											
7	家族教育プログラム(心理教育)について学ぶ。											
8	精神科デイ・ケア等の理解とプログラミングを行う。											
9	精神科で行われるアウトリーチについて実践例などを基に理解する。											
10	チーム医療の概要を知る。											
11	他職種との連携・協働の在り方について実践例などを基に理解する。											
12	地域移行支援の対象を理解する。											
13	地域移行の体制について学ぶ。											
14	精神保健福祉士の役割と他職種との連携について実践例などを基に理解する。											
15	地域移行に係る組織や機関(協議会)、地域移行を推進する制度、施策を学ぶ。											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表明・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○	○	○	○	○	○					
時間外学習の内容と時間の目安	準備 テキストの該当箇所、配布資料や参考文献などの情報を必要に応じて予習する(15h)。ディスカッションの準備をする(15h)。 事後 授業で学習したことをテキストや配布資料をもとに復習し、理解水準を確かなものとする(30h)。											
教科書	新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ(第2版)』中央法規、2014年。											
参考書	参考書は指定しない。適宜資料配布する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート(最終課題)	60%	○	○	○							
	中間ミニレポート	20%		○	○							
	グループディスカッションへの参加態度とその内容	20%	○		○							
注意事項												
備考	授業の内容は予定ですので、変わる可能性があります。											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の实務 経験	精神科病院でのソーシャルワーク（精神保健福祉士）、学校教育機関でのソーシャルワーク（社会福祉士・精神保健福祉士）
実務経験を いかした教 育内容	実践現場における事例の提供や理論と実践の間にあるジレンマを教材として取り扱う。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)					
H040S315		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ(Psychiatric Social WorkⅣ)					精神保健福祉系					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	4	福祉健康科学部	前期		氏名 今村浩司						
						E-mail imamura_k@seinan-jo.ac.jp 内線						
授業概要 この科目では、精神保健福祉士が利用者の生活支援を行うにあたって必要な知識、技術、方法論について理解させる。具体的には精神障害者ケアマネジメントの理念や手法、さらには地域住民を巻き込んだ精神障害者地域支援の在り方について、グループワーク形式で自主的な学びを促しながら理解を深めさせる。またテキストにそって新たな課題となる精神障害者の就労支援や地域生活支援の意義、援助技術についても理解を促す。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1	障害者のケアマネジメントについて、関連法との関係から理解する。											
目標2	チームアプローチにおける精神保健福祉士の役割を理解する。											
目標3	精神保健福祉士の地域援助について理解できる。											
目標4	精神保健福祉士の援助技術全般について理解を深める											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 地域相談援助の現状と課題 1												
2 地域相談援助の現状と課題 2												
3 地域相談援助の現状と課題 3												
4 精神障害者と障害者福祉の連動と課題 1												
5 精神障害者と障害者福祉の連動と課題 2												
6 精神障害者のケアマネジメント 1												
7 精神障害者のケアマネジメント 2												
8 精神障害者のケアマネジメント 3												
9 地域を基盤とした支援 1												
10 地域を基盤とした支援 2												
11 地域を基盤とした支援 3												
12 総合的・包括的支援とは 1												
13 総合的・包括的支援とは 2												
14 総合的・包括的支援とは 3												
15 総合的・包括的支援とは 4												
ラーニング	A:知識の定着・確認 ☐ グループに分かれて調べ学習、発表の繰り返し B:意見の表現・交換 ☐ C:応用志向 ☐ D:知識の活用・創造 ☐					工夫その他						
時間外学習の目標	準備 教科書の該当箇所を熟読し、事前に課題を整理し明確にしておく (10時間) 事後 講義で解説した教科書該当箇所を再考し、講義内で紹介した文献や資料等で理解を含め、学修した内容を定着させる (10時間)											
教科書	中央法規出版 「精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」の最新版											
参考書	講義内で説明する											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	グループ学習・発表	10%	○	○	○	○						
	期末テスト	90%	○	○	○	○						
合計	合計 100 点中 60 点以上が合格 (ただし出席 3 分の 2 以上が条件)											
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須条件である。											
備考												
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	精神科医療機関の相談援助職として20年、刑事施設にて精神障害受刑者支援10年、成年後見センター理事10年、社会福祉法人理事10年等

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H040S222		精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ(Social Welfare System and Service for Person with Mental Disorder Ⅰ)				精神保健福祉系																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																																																																																																																										
選択	2	3	福祉健康科学部	前期		氏名 橋本美枝子 E-mail hnieko@oita-u.ac.jp 内線 7604																																																																																																																										
授業の概要 1. 精神障害者の支援に関する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。 2. 精神障害者の支援において保つる施設、団体、関連機関等について理解する。 3. 社会資源の調査・開発に係わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。 以上を理解することを通して、演習や実習で知識と技術を統合するとともに、卒業後の福祉実践場面で支援をマネジメントし、リーダーシップを取れる能力を育むことが本授業のねらいである。																																																																																																																																
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービスの実際について、自分の言葉で説明することができる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 精神障害者に関する社会保障制度について、自分の言葉で説明することができる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職の機能・役割を理解し、地域住民との協働の意義を自分の言葉で説明できる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4 社会資源の調査・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法および活用について、自分の言葉で説明することができる。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービスの実際について、自分の言葉で説明することができる。	○										目標2 精神障害者に関する社会保障制度について、自分の言葉で説明することができる。	○										目標3 相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職の機能・役割を理解し、地域住民との協働の意義を自分の言葉で説明できる。	○										目標4 社会資源の調査・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法および活用について、自分の言葉で説明することができる。	○										目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																						
目標1 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービスの実際について、自分の言葉で説明することができる。	○																																																																																																																															
目標2 精神障害者に関する社会保障制度について、自分の言葉で説明することができる。	○																																																																																																																															
目標3 相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職の機能・役割を理解し、地域住民との協働の意義を自分の言葉で説明できる。	○																																																																																																																															
目標4 社会資源の調査・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法および活用について、自分の言葉で説明することができる。	○																																																																																																																															
目標5																																																																																																																																
目標6																																																																																																																																
目標7																																																																																																																																
目標8																																																																																																																																
目標9																																																																																																																																
目標10																																																																																																																																
授業の内容 - 障害者基本法と精神障害者施策との関わり - 障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際 - 精神障害者を対象とした福祉施策・事業の実際 - 医療保険制度の意義と内容 - 介護保険制度の意義と内容 - 経済的支援に関する制度の意義と内容 - 行政組織と民間組織の役割と実際 - 福祉サービス提供施設・機関 - インフォーマルな社会資源の役割と実際 - 専門職や地域住民の役割と実際 - 社会調査の意義と目的・根拠にもとづいた実践 - 社会調査の対象および調査における倫理(社会調査における個人情報保護) - 量的調査の方法と活用 - 質的調査の方法と活用 - ICTの活用方法																																																																																																																																
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○ 正確な知識が定着しているか確認するために、毎回、学生に意見や疑問を求め、工夫を要する。 B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 D:知識の活用・創造																																																																																																																															
時間外学習の内容と時間の目安	準備 制度・サービスについて理解を深めるために、教科書の内容をノートに整理すること(30h)。 事後 学んだ制度・サービスに関する知識を定着させるために、講義ノートを整理するとともに、暗記すること(15h)。																																																																																																																															
教科書	日本精神保健福祉士養成協議会編『新・精神保健福祉士養成講座6 精神保健福祉に関する制度とサービス』中央法規出版、2018年																																																																																																																															
参考書	杉本豊和(編集)、伊藤千尋(編集)、森谷康文(編集)『精神障害のある人と家族のための生活・医療・福祉制度のすべてQ&A(第11版)』萌文社、2018年 その他、資料を配布する																																																																																																																															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																				
	期末試験	70%	○	○	○	○																																																																																																																										
	授業中の発言内容や参加姿勢等	30%	○	○	○	○																																																																																																																										
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須要件である。																																																																																																																															
備考	なし																																																																																																																															
リンク	URL																																																																																																																															

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）
実務経験を いかした教 育内容	精神障害者が利用できる福祉制度・サービスについて、事例を用いて具体的に理解できるよう実践的学習を行う。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)											
H0405223		精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ (Social Welfare System and Service for Person with a Mental Disorder Ⅱ)					精神保健福祉系											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	3	福祉健康科学部	後期		氏名 橋本美枝子 E-mail hmiako@oita-u.ac.jp 内線 7604												
授業の概要 精神保健福祉に関する制度とサービスを理解することを目的として展開する。具体的には、精神保健福祉制度の中核ともいえる精神保健福祉法の概要と重要点について解説する。特に重要なのは、精神科の入院制度および精神障害者福祉手帳に関する規定である。次に更生保護の概要である。犯罪を防ぐ、あるいは犯罪や非行をなした者への更生のための制度を学ぶ。そして、精神脆弱または精神喪失時に重大な危害行為を行った者に対する医療観察法について学ぶ。																		
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1 精神保健福祉法の意義と内容について、自分の言葉で説明することができる。							○											
目標2 更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係について、自分の言葉で説明することができる。							○											
目標3 更生保護制度における関係機関や団体との連携について、自分の言葉で説明することができる。							○											
目標4 医療観察法の概要について、自分の言葉で説明することができる。							○											
目標5 医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割について、自分の言葉で説明することができる。							○											
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 精神保健福祉法の法制度見直しの背景																		
2 精神保健福祉法の目的および構成																		
3 地方精神保健福祉審議会及び精神医療審査会																		
4 精神保健指定医																		
5 入院形態と手続き（入院中の権利、制限等を含む）																		
6 退院後生活環境相談員																		
7 精神障害者保健福祉手帳																		
8 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割																		
9 更生保護制度とその担い手																		
10 司法・医療・福祉の連携																		
11 保護観察所の役割と実際																		
12 医療観察法の意義と内容																		
13 医療観察法における入院者・通院者に関する処遇																		
14 社会復帰調整官の役割と実際																		
15 精神保健委員の役割と実際																		
ラーニング	A:知識の定着・確認 ☐ 知識の定着を確認するために、毎回、学生に意見や説明等を求める。																	
	B:意見の表現・交換 ☐ なし																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備	制度・サービスについて理解を深めるために、教科書の内容をノートに整理すること（30h）。																
	事後	学んだ制度・サービスに関する知識を定着させるために、講義ノートを整理するとともに、暗記すること（15h）。																
教科書	日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座Ⅱ 精神保健福祉に関する制度とサービス』中央法規出版、2018年																	
参考書	資料を配布する																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	期末試験	70%	○	○	○	○	○											
	授業中の発言内容や参加姿勢等	30%	○	○	○	○	○											
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須要件である。																	
備考	なし																	
リンク	URL																	

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）
実務経験を いかした教 育内容	精神障害者が利用できる福祉制度・サービスについて、事例を用いて具体的に理解できるよう実践的学習を行う。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)					
H040S224		精神障害者の生活支援システム(Life Support System for People with Mental Illness)					精神保健福祉系					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	3年	福祉健康科学部	後期		氏名 茶屋道 拓哉						
						E-mail t-chayamichi@soc.tuk.ac.jp 内線						
授業の概要 1. 精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。 2. 精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。 3. 職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。 4. 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。												
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照)												
目標1	精神障害者の生活支援の意義と特徴について説明できる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について説明できる。	○										
目標3	職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動について説明できる。		○									
目標4	行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について説明できる。	○										
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 精神障害者の概念について学ぶ。												
2 精神障害者の生活の実態を理解する。												
3 精神障害者の生活支援の理念と概要について学ぶ。												
4 地域生活における精神障害者の人格について具体例から考える。												
5 居住支援制度の概要を学ぶ。												
6 居住支援に係わる専門職の役割と連携について実践例を基に考える。												
7 居住支援の実態と近年の動向について学ぶ。												
8 精神障害者の就労支援制度の概要を学ぶ。												
9 精神障害者の就労支援に係わる専門職の役割と連携について実践例を基に考える。												
10 精神障害者の就労支援の実態と近年の動向について学ぶ。												
11 行政における相談援助システムについて学ぶ。												
12 精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援システムを考える。												
13 精神障害者の社会参加活動とソーシャルサポートネットワークについて考える。												
14 クライシスケアシステムの在り方について学ぶ。												
15 海外における地域生活支援モデルの動向を学ぶ。												
授業の 評価 方法 及び 評価 割合	A:知識の定着・確認 ○ 演習、グループ・ペアでのディスカッション、ブレインストーミング B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 D:知識の活用・創造	E:その 他 の 評価 方法		A:知識の定着・確認 ○ 演習、グループ・ペアでのディスカッション、ブレインストーミング B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 D:知識の活用・創造 E:その他の評価方法								
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備学修 テキストの該当箇所、配布資料や参考文献などの情報を必要に応じて予習する(15h)。ディスカッションの準備をする(15h)。 事後学修 授業で学習したことをテキストや配布資料をもとに復習し、理解水準を確実なものとする(30h)。											
教科書	新・精神保健福祉士養成講座『精神障害者の生活支援システム(第3版)』中央法規、2018年。											
参考書	参考書は指定しない。適宜資料配布する。											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	レポート(最終課題)	60%	○	○	○	○						
	中間ミニレポート	20%	○	○								
	グループディスカッションへの参加態度とその内容	20%	○	○	○	○						
	試験の合格を単位取得の条件とする。											
注意事項												
備考	なし											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	精神科病院でのソーシャルワーク（精神保健福祉士）、学校教育機関でのソーシャルワーク（社会福祉士・精神保健福祉士）
実務経験を いかした教 育内容	実践現場における事例の提供や理論と実践の間にあるジレンマを教材として取り扱う。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
H040S411		精神保健福祉援助演習Ⅰ(Practice on Psychiatric Social WorkⅠ)					精神保健福祉系									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	3	福祉健康科学部	後期		氏名 橋本美枝子 E-mail hnieko@oita-u.ac.jp 内線 7604										
授業の概要 精神保健福祉援助実習前の段階である本授業では、講義科目で習得した理論や技術などを関連づけながら、精神保健福祉士に必要な専門知識や職業倫理について理解を深める。そのために、総合的かつ包括的な相談援助、国家と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を用いて、ロールプレイング等の実技指導を中心とした演習を通して、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										
目標1	精神障害者に対する社会的排除の構造を理解し、自分の言葉で説明できる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術を用いて、さまざまな生活困難がなぜ生じているのか構造を理解できる。					○										
目標3	ロールプレイング等の実技演習を通して、精神障害者の生活や困難について把握し、適切な援助技法等を用いることができる。					○										
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 精神障害者に対する社会的排除の構造																
2 「差別意識」の自己覚知																
3 薬物、アルコールなどアディクションの生起要因と支援方法																
4 不登校、引きこもりなど教育問題の生起要因と支援方法																
5 低所得、ホームレスなど貧困問題の生起要因と支援方法																
6 就労上の困難と支援方法																
7 精神保健からみた児童虐待の特徴と支援方法																
8 前方連携(入院支援)の方法																
9 後方連携(退院支援)の方法																
10 インクルージョン思想を基盤とする地域移行と地域生活継続																
11 精神科リハビリテーションⅠ 作業療法の具体的展開(事例検討)																
12 精神科リハビリテーションⅡ 集団精神療法(ピアサポート)の具体的展開(事例検討)																
13 精神科リハビリテーションⅢ 行動療法の具体的展開(事例検討)																
14 精神科リハビリテーションⅣ 生活技能訓練の具体的展開(事例検討)																
15 精神障害者とソーシャルワーク																
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○ 毎回、事例に関する質疑応答や意見表明を求める。また、ロールプレイ等を用いた体験的な学習を行う。					工夫	なし									
評価方法	B:意見の表現・交換 ○					その他の										
評価方法	C:応用志向 ○															
評価方法	D:知識の活用・創造 ○															
時間外学習の内容と時間の目安	準備 テキストおよび事例を読み込んだ上で、授業に臨む。その際、わからないことを調べるとともに、事例についてはジェノグラム・エコマップ・タイムラインなどを作成し、事例の概要を整理しておくこと(30h)。 事後 演習で学んだ内容をノートに整理する(15h)。															
教科書	日本精神保健福祉士養成校協会編『第8巻 精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』中央法規,2016年															
参考書	資料を配布する															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	課題への取り組み	60%	○	○												
	授業中の発言内容や参加姿勢等	40%	○	○	○											
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須条件である。															
備考	なし															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）
実務経験を いかした教 育内容	精神障害者およびメンタルヘルスの課題をもつクライアントの生活課題を分析し、援助計画を立てたり、面接やグループ援助スキル等が獲得できるよう実践的な指導をする。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)								
H040S422		精神保健福祉援助演習Ⅱ(Practice on Psychiatric Social Work Ⅱ)					精神保健福祉系								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・冠	担当教員									
選択	2	4	福祉健康科学部	後期		氏名 橋本美枝子 E-mail, hmiako@oita-u.ac.jp 内線 7604									
授業概要 精神保健福祉援助演習で行った事例研究を集団で検討することを通して、自らの実践を内省するとともに他者の経験や考えから学ぶことで、精神保健福祉士に必要な援助技術・知識・価値の統合をはかる。そのために、精神保健福祉援助演習で行った事例研究を集団で検討する。その際、質疑応答や意見表明のみならず、ロールプレイ等を用いた体験的な学習を行う。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10							
目標1	事例を多面的にとらえなおすことができる						○								
目標2	自身の知識や価値、事象に対する認知や行動の傾向等を自覚することができる							○							
目標3	アセスメント・援助計画・評価の方法等を理解し、実践できる							○							
目標4	ロールプレイ等の体験的な学習を通して、具体的な援助技術が実践できる							○							
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1 事例研究の意義と方法															
2 事例検討による実習体験の一般化：ハーバード方式による事例検討 (1)															
3 事例検討による実習体験の一般化：ハーバード方式による事例検討 (2)															
4 事例検討による実習体験の一般化：ハーバード方式による事例検討 (3)															
5 事例検討による実習体験の一般化：ハーバード方式による事例検討 (4)															
6 事例検討による実習体験の一般化：ハーバード方式による事例検討 (5)															
7 事例検討による実習体験の一般化：ハーバード方式による事例検討 (6)															
8 プロセスレコードを用いた事例検討の方法															
9 事例検討による実習体験の一般化：プロセスレコードを用いた事例検討 (1)															
10 事例検討による実習体験の一般化：プロセスレコードを用いた事例検討 (2)															
11 事例検討による実習体験の一般化：プロセスレコードを用いた事例検討 (3)															
12 事例検討による実習体験の一般化：プロセスレコードを用いた事例検討 (4)															
13 事例検討による実習体験の一般化：プロセスレコードを用いた事例検討 (5)															
14 事例検討による実習体験の一般化：プロセスレコードを用いた事例検討 (6)															
15 まとめ															
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	精神保健福祉援助演習で行った事例研究を集団で検討する。その際、質疑応答や意見表明のみならず、ロールプレイ等を用いた体験的な学習を行う。					工夫 その他	なし							
時間外学習の内容と時間の目安	準備 事後	事前に配布された事例を読み込み、わからないことを調べるとともに、質問内容・自分ならどうするかを考えて演習に臨むこと (30h)。 演習で学んだ内容についてノートに整理する (15h)。													
教科書	日本精神保健福祉士養成校協会編『精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』中央法規, 2016年														
参考書	資料を配布する														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	事例レポート	50%	○	○	○										
	発言やロールプレイ等への取り組み姿勢	50%	○	○	○	○									
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須条件である。														
備考	なし														
リンク	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）
実務経験を いかした教 育内容	精神障害者およびメンタルヘルスの課題をもつクライアントの生活課題を分析し、援助計画を立てたり、面接やグループ援助スキル等が獲得できるよう実践的な指導をする。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H040S511		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ (Psychiatric Social Work Practicum Guidance and Supervision Ⅰ)					精神保健福祉系																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																																																																																																																											
選択	2	3	福祉健康科学部	後期		氏名 橋本美枝子 E-mail hnieko@qita-u.ac.jp 内線 7604																																																																																																																											
授業概要 本科口では、次年度に精神科医療機関とそれ以外の2機関で実習を行うために必要な事前指導を通して、各機関の機能や求められる専門性を体得する。そこで、精神保健福祉援助実習と実習指導の内容と展開の説明および意義を理解し、精神保健医療福祉の現状や精神保健福祉士の職業倫理と法的責務について、講義および精神科医療機関と精神保健福祉センターの見学実習を通して学ぶ。学生の実習目標と照合した上で、実習先を選定し、実習計画書の個別・集団指導を行う。ならびに個人情報保護法の理解を含む守秘義務について指導する。																																																																																																																																	
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 精神保健福祉援助実習指導における個別・集団指導の意義が理解できる。</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 精神保健医療福祉の現状および精神保健福祉援助の専門的知識と技術、職業倫理と法的責務を理解できる。</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 実習施設と地域社会を理解した上で、実習生・実習担当教員・実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画を立てられる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 精神保健福祉援助実習指導における個別・集団指導の意義が理解できる。		○									目標2 精神保健医療福祉の現状および精神保健福祉援助の専門的知識と技術、職業倫理と法的責務を理解できる。		○									目標3 実習施設と地域社会を理解した上で、実習生・実習担当教員・実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画を立てられる。			○								目標4											目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																							
目標1 精神保健福祉援助実習指導における個別・集団指導の意義が理解できる。		○																																																																																																																															
目標2 精神保健医療福祉の現状および精神保健福祉援助の専門的知識と技術、職業倫理と法的責務を理解できる。		○																																																																																																																															
目標3 実習施設と地域社会を理解した上で、実習生・実習担当教員・実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画を立てられる。			○																																																																																																																														
目標4																																																																																																																																	
目標5																																																																																																																																	
目標6																																																																																																																																	
目標7																																																																																																																																	
目標8																																																																																																																																	
目標9																																																																																																																																	
目標10																																																																																																																																	
授業の内容 - 精神保健福祉援助実習と実習指導の内容と展開 (オリエンテーション) - 精神保健福祉実習の意義 (個別指導と集団指導の意義を含む) - 精神保健医療福祉の現状 (利用者理解を含む) に関する基本的な理解 - 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 - 見学実習 (精神科医療機関) の目的・事前学習 - 見学実習 (精神科医療機関) - 見学実習 (精神科医療機関) の振り返り - 見学実習 (精神障害者施設) の目的・事前学習 - 見学実習 (精神障害者施設) - 見学実習 (精神障害者施設) の振り返り - 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解 - 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解 - 実習計画書の作成 (個別指導) - 実習計画書の作成 (集団指導) - 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成																																																																																																																																	
ラベリング	A:知識の定着・確認 ○ 毎回、学生に意見や説明等を求める。施設見学の事前・事後学習を宿題として課す。実習計画は、2-3年次の実習の振り返りを基盤に立案し、発表する。施設見学の他、断酒会・AA等、自助グループに参加して当事者から体験的に学習する。 B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 ○ D:知識の活用・創造 ○					工夫、その他の	なし																																																																																																																										
時間外学習の内容と時間の目安	準備 精神保健福祉センター、精神科病院の設置基準、役割・機能、精神保健福祉士の業務などについて、事前学習を行う (10h)。2-3年次の相談援助実習を振り返り、自己評価し、4年次の精神保健福祉援助実習の援助計画を立てる (20h)。 事後 指導内容 (見学実習を含む) についてノートを整理する (15h)。																																																																																																																																
教科書	資料を配布する																																																																																																																																
参考書	資料を配布する																																																																																																																																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																					
	レポート	70%	○	○	○																																																																																																																												
	授業中の発言内容や参加姿勢等	30%	○	○	○																																																																																																																												
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須条件である。																																																																																																																																
備考	なし																																																																																																																																
リンク	URL																																																																																																																																

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	精神保健福祉センター（保健師、精神保健福祉士）、精神科病院（精神保健福祉士）
実務経験を いかした教 育内容	精神保健福祉センター、精神科病院での見学実習指導において、機関の役割・機能および、各専門職の業務内容について実践的に学習する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)													
H040S513		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(Psychiatric Social Work Practicum Guidance and Supervision Ⅱ)					精神保健福祉系													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・選	担当教員														
選択	2	4	福祉健康科学部	前期		氏名 橋本美枝子 E-mail hmlako@oita-u.ac.jp 内線 7604														
授業の概要	価値や倫理を基盤とした上で、精神障害者の生活や課題を理解し、相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ実践的に理解する。実習前には、記録方法、プライバシー保護・守秘義務の理解、実習前の確認、事例研究の方法等について指導を行うとともに、事前訪問指導を行う。実習終了後は、施設及び精神科医療機関実習での記録や体験を踏まえた省察を行う。																			
具体的な到達目標	DF等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	価値や倫理を基盤とした上で、精神障害者の生活や課題を理解できる。											○								
目標2	相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ実践的に理解できる。											○								
目標3	実習記録の方法について理解し、事実と考察を分けて記入できる。												○							
目標4	個人情報保護および守秘義務について理解できる。												○							
目標5	事例研究のためのケースサマリーの意義・まとめ方が理解できる。												○							
目標6	実習終了後に記録をもとに精神保健福祉士の専門性、クライアントの生活課題を省察できる。												○							
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法1 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法2 - 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解1 - 実習における個人情報保護法の理解 - 実習前の確認事項(事前訪問前の指導)1 - 実習前の確認事項(事前訪問前の指導)2 - 実習前の確認事項(事前訪問前の指導)3 - 実習前の確認事項(事前訪問前の指導)4 - 実習前の確認事項(事前訪問前の指導)5 - 事例研究の意義と方法 - ケースサマリーのまとめ方 - プロセスレコードのまとめ方 - 精神科医療機関実習での記録や体験を踏まえた省察(集団指導)1 - 施設実習での記録や体験を踏まえた省察(集団指導)2 - 施設及び精神科医療機関実習での記録や体験を踏まえた総合的評価(集団指導)																			
ラーニングアクティビティ	A:知識の定着・確認 ○ 係回、知識が定着しているかを確認するために質問をする。また、実習前および実習後にはグループディスカッションによって、意見表明・交換を行う。 B:意見の表明・交換 ○ C:応用志向 ○ D:知識の活用・創造 ○										工夫	その他	なし							
時間外学習の内容と時間の目安	準備 あらかじめ配布する資料に必ず目を通し、要点を整理しておく(6h)。 事後 実習後は、実習記録から精神保健福祉士の専門性、クライアントの生活課題等について、何を学んだのか具体的に整理してから指導に臨むこと(24h) 事後 実習指導内容をノートに整理する(15h)。																			
教科書	資料を配布する																			
参考書	資料を配布する																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
成績評価の方法及び評価割合	レポート等提出物	50%	○	○	○	○	○	○												
	実習指導への参加姿勢	50%	○	○	○		○	○												
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須条件である。																			
備考	なし																			
リンク	URL																			

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）
実務経験を いかした教 育内容	事前指導では、実習現場を想定した指導を行う。クライアントの生活課題を理解するために、実践現場で用いていたケースサマリーのフォーマットを用いて指導する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H0405514		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ(Psychiatric Social Work Practicum Guidance and Supervision Ⅲ)					精神保健福祉系																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員																																																																																																																											
選択	2	4	福祉健康科学部	後期		氏名 橋本美枝子 E-mail hmiako@oita-u.ac.jp 内線 7604																																																																																																																											
授業の概要 本科Ⅱでは、精神科医療機関と精神科医療機関以外の2機関での実習の事後指導を行う。事後指導の内容は、①実習中に行った事例研究を用いた事例の発表とディスカッションを通して、利用者・環境・精神保健福祉上の専門性の深化を図る。②実習報告会に向けての発表準備(実習報告会での発表資料の作成および個別指導)、③実習報告書の作成(個別指導)、④実習成果の検証を通して、実習評価(個別指導・集団指導)、⑤実習および実習指導を通して学生自身の学習成果・成長の評価(集団指導)である。																																																																																																																																	
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 実習記録や実習体験を踏まえた自己課題を整理できる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 実習記録や実習体験を踏まえた自己課題を言語化できる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 実習での学び・考えたことを実習総括レポートとして文章化できる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4 実習総括レポートの内容を実習報告会で口頭発表できる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5 実習報告会での質疑応答に適切に回答できる。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 実習記録や実習体験を踏まえた自己課題を整理できる。			○								目標2 実習記録や実習体験を踏まえた自己課題を言語化できる。			○								目標3 実習での学び・考えたことを実習総括レポートとして文章化できる。			○								目標4 実習総括レポートの内容を実習報告会で口頭発表できる。			○								目標5 実習報告会での質疑応答に適切に回答できる。			○								目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																							
目標1 実習記録や実習体験を踏まえた自己課題を整理できる。			○																																																																																																																														
目標2 実習記録や実習体験を踏まえた自己課題を言語化できる。			○																																																																																																																														
目標3 実習での学び・考えたことを実習総括レポートとして文章化できる。			○																																																																																																																														
目標4 実習総括レポートの内容を実習報告会で口頭発表できる。			○																																																																																																																														
目標5 実習報告会での質疑応答に適切に回答できる。			○																																																																																																																														
目標6																																																																																																																																	
目標7																																																																																																																																	
目標8																																																																																																																																	
目標9																																																																																																																																	
目標10																																																																																																																																	
授業の内容 - 事後学習の目的と意義 - 実習記録や実習体験をふまえた課題達成状況の評価(1) - 実習記録や実習体験をふまえた課題達成状況の評価(2) - 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理(1) - 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理(2) - 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書(実習総括レポート)の作成指導(1) - 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書(実習総括レポート)の作成指導(2) - 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書(実習総括レポート)の作成指導(3) - 実習の評価全体総括会(実習報告会)の発表資料の作成指導(1) - 実習の評価全体総括会(実習報告会)の発表資料の作成指導(2) - 実習の評価全体総括会(実習報告会)の発表資料の作成指導(3) - 実習報告会による全体的評価の総括①実習報告会(実習の評価全体総括会)での発表 - 実習報告会による全体的評価の総括②実習報告会(実習の評価全体総括会)での発表 - 実習報告会での発表の振り返り(評価・総括) - 実習指導過程全体を振り返り(評価・総括)																																																																																																																																	
ラ フ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認 ○実習記録や実習体験を踏まえた自己課題を整理し、文章および口頭で表 現し、実習生同士で意見交換をする。 B:意見の表現・交換 ○実習での学び・考えたことを実習総括レポートとしてまとめる。また、 C:応用志向 ○実習報告会で発表する。 D:知識の活用・創造 ○					工 夫 の 他 の	なし																																																																																																																										
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備学修 実習総括レポートの作成(20h)、実習報告会の資料作成・発表準備(10h) 事後学修 実習指導の内容をノートに整理する(15h)																																																																																																																																
教科書	資料を配布する																																																																																																																																
参考書	資料を配布する																																																																																																																																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10																																																																																																																					
	実習報告書	40%	○	○	○																																																																																																																												
	総括レポート	30%	○	○	○																																																																																																																												
	実習指導への参加姿勢	30%	○	○	○	○	○																																																																																																																										
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須条件である。																																																																																																																																
備考	なし																																																																																																																																
リンク	URL																																																																																																																																

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）
実務経験を いがした教 育内容	精神障害当事者および家族のニーズや、地域、精神科医療機関および障害福祉サービス事業所など、精神障害者の保健医療福祉に携わる機関の実情を踏まえ、今後 精神保健福祉士として働くために必要な知識・スキルを認識した指導を行う。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	
H040S512		精神保健福祉援助実習(Psychiatric Social Work Practicum)					精神保健福祉系	
*大分を創る科目								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員		
選択	5	4	福祉健康科学部	後期		氏名 橋本美枝子 E-mail hmiako@oita-u.ac.jp 内線 7604		
授業の概要 精神科医療機関と精神科医療機関以外の2機関で実習を行う。実習中は、毎週実習を振り返り、直面した課題に効果的に取り組めるように、帰校による個別指導(実習日誌への指導・個別相談)と集団指導(実習の振り返りとSSTなどロールプレイをもちいた課題解決)を行う。また実習機関での巡回指導では、実習生への指導とともに、実習指導者と実習指導に関する協議等を行う。各機関の実習終了後は直ちに実習のまとめを行う(個別指導)。								
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		
目標1	入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助について理解できる							
目標2	退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助について理解できる							
目標3	多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助について理解できる							
目標4	利用者や関係者等とコミュニケーションをとることができる							
目標5	利用者やその関係者との支援関係を形成することができる							
目標6	精神保健福祉士の倫理に基づいた行動をとることができる							
目標7	簡潔明瞭に実習日誌を記述することができる							
目標8	実習目標を意識して実習に取り組むことができる							
目標9								
目標10								
授業の内容								
1	精神科医療機関(12日)と精神科医療機関以外(7日)の2機関で実習を行い、それぞれの機関の機能や求められる専門性を体得する。							
2	精神科病院(12日)では、以下について指導を受ける							
3	①入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助							
4	②退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助							
5	③多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助							
6	精神科医療機関・精神科医療機関以外の施設(7日)2機関共通で、以下について指導を受ける。							
7	①利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い力などの円滑な人間関係の形成							
8	②利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成							
9	③利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成							
10	④利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワーメントを含む)とその評価							
11	⑤精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践							
12	⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解							
13	⑦施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解							
14	⑧施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践							
15	⑨当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、							
16	社会資源の活用・調整・開発に関する理解							
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		毎週実習を振り返り、直面した課題に効果的に取り組めるように、帰校による個別指導(実習日誌への指導・個別相談)と集団指導(実習の振り返りとSSTなどロールプレイをもちいた課題解決)を行う。			工 夫 の な し		
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学習	事前学習を行う(1時間/日)						
	事後 学習	実習終了後、その日のうちに実習日誌を記述する(1時間/日) 実習中にわからなかったことを調べる(1時間/日)						
教科書	資料を配布する							
参考書	資料を配布する							

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	実習指導者評価	40%	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	実習日誌	30%	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	実習指導への参加姿勢	30%	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須要件である。												
備考	【地域創生教育科目】												
リンク	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の 実務経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）												
教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	○												
教員以外で 指導に関わる 実務経験者	精神保健福祉士												
実務経験を いかした教育内容	実習機関の実習指導者は、面接場面やグループワーク、利用者宅への訪問、関係機関との連携等、精神保健福祉士として必要な実務に学生を同席させる等、実践的な指導を行う。												